

柏木ビジョン

新宿区立

柏木小学校

2024.6.12

まなびのマルシェ

「まなびのマルシェ」を昨年度に 3 回実施し、今回で 4 回目となりました。子どもたちへの認知が進み、お気に入りの冒険者も出てきて、毎回のリピーターも続出しています。また、冒険者の方の応募も増え、今回も時間切れなどの理由から応募に漏れた方も多数いらっしゃるとうかがっています。冒険者及びサポーターに応募いただいた皆様、ご参観いただいた皆様、ありがとうございました。

今回の「まなびのマルシェ」をもって、しばらくマルシェはお休みとしますが、そのことも含めて、今回のマルシェを振り返っていききたいと思います。

まなびのマルシェの意図

「まなびのマルシェ」に登場する冒険者の皆様は、朝 8 時までに入校されて、初めての冒険者の方もいらっしゃるので、意図と企画の説明を受けます。ただ単に、あいさつをして、子どもたちに体験をさせればいいというものではなく、これまでの生き方や考え方、あるいはこだわりまでを話していただくことになっていまして、この了解が取れた人のみ参加をしていただくシステムとなっています。実は、子どもたちに話をする際に、イデオロギー的なこと、社会を批判すること、一部の思想や宗教に偏った主張をしたいという方には、事前にこのプログラムをまとめている(株)グラグリッドで、ご遠慮していただいているのです。

ちなみに、「まなびのマルシェ」は、令和 3 年度の途中に、子どもたちに教科書に載っているような決まりきったことではなく、いろいろなことに好奇心をもって楽しむ機会を創りたいと思い、企画をグラグリッド社に持ち掛けたことが始まりでした。一昨年度の 2 月に、2 学年だけのプレマルシェを開き、全校規模にした時の改善点を探りながら実施したのが昨年度のことです。

オープニング



ほーちゃんの司会で始まる

「まなびのマルシェ」のオープニング、劇団四季の舞台にも立っているほーちゃんの司会で始まりました。ざわついていた体育館を、声を出さずに注目させ、手拍子や動作化を入れて静かにしていきます。いよいよ「まなびのマルシェ」が始まるんだという期待感で、子どもたちのテンションが高まっていくのが感じました。

ほーちゃんに促されて、17 人の冒険者が次々と姿を現します。いつも出てくださっている方、久ぶりの方、初めての方、笑顔を浮かべて、子どもたちは行き先を頭に描いています。



Tom さん



お茶やさん



たっくん

まなびのマルシェスタート



今回の冒険者は全部で 17 人。子どもたちもわくわくしてマルシェに参加をしました。中には、定員が少なく、前もって予約制となったところもいくつかあり、一コマ目と二コマ目の間には、小

走りで教室間を移動する姿が見られました。また、「魔法の授業」というマルシェでは、出光興産がつくっているミライストリームというYouTube配信の取材があり、子どもたちのいきいきとした表情が撮影されていました。近日公開される予定です。

全校での振り返り



3 コマの「まなびのマルシェ」を終えて、子どもたちが体育館に集まります。縦割り班ごとに分かれて、今回は、感じたことや思ったことを大きめの付箋に書き出して、グラフ状になっている模造紙に貼っていき、可視化して傾向を見ていきます。

本校の弱いところなのですが、どうしても話し合いということが、特に異学年では成立しづらいということがあります。今回は、そういったことも踏まえて、付箋に書き出すということをしてみました。視点も示していたのですが、大人でもなかなか難しいこの統計の理解と解釈は、まだまだ経験が足りないなと感じました。書いたことをまとめて発表するだけでは、本質が見えてきませんし、そもそも何のためにするのか明確になっていなかったため、感想の述べ合いから脱していないという指摘を、冒険者の方や視察をしていた立命館大学の先生からもご指摘を受けました。

今後さらに、大人の間でも通用するような話し合いのスキルを上げていきたいと思っています。

「まなびのマルシェ」の今後

子どもたちからは、今回で「まなびのマルシェ」がいったん休止となることを受けて、とても残念がる声と、再開を望む声が多数上がっています。絶頂期とも言えるこの時期でお休みをするのには、そもそも驚きや刺激を与えて、子どもたちの考えや生き方をもっと広げたいと思った使命がひと段落をしたことと、マンネリ化を防ぐことにあります。また、せっかく培った力は、3年生以上とはなりますが、2学期以降の「ライブ」(起業型探究プロジェクト)で思う存分に発揮させたいと考えています。また、実は課題の一つは、予算面の苦しさという側面もあります。今年度も後日マルシェの教材費としまして、一人500円(昨年度は3回で一人 1500 円)を集合させていただきますが、この負担は、全体にかかる人件費や運営委託費などの経費に対し、3分の1にしかならないのです。それでも、子どもたちの成長につながるということであれば、来年度以降も継続は検討していこうと考えています。ご意見を関係者評価などでお寄せください。

